

2021年12月期 決算説明会

2022年2月10日
THK株式会社
代表取締役社長
寺町彰博

本資料に含まれている事業計画、業績予想、経営戦略など将来の見通しに関する事項は、本資料制作時点において入手可能な情報に基づき、THK株式会社の経営者が判断したものです。したがって、環境の変化により、業績や戦略の進捗状況が異なることがあり得ることをご承知ください。また、当資料には決算開示事項以外の参考情報が含まれますこともご承知ください。

目次

I. 2021年12月期 決算概要

II. 経営目標と主な取り組み

III. 2022年12月期 業績予想

I. 2021年12月期 決算概要

連結売上収益は前期比45.3%増加の3,181億円となった

- 新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中、他の国に先んじて経済活動を再開した中国に続き、先進国、その他の地域も本格的な需要の回復期を迎えた。
- 産業機器事業は、工場拡張に加え、自動化・ロボット化による生産性向上など、これまで生産能力の増強を推し進めてきたことにより、これらの需要を着実に売上収益へと繋げた。
- 輸送機器事業は半導体などの部材不足に伴う自動車の減産の影響を受けた。

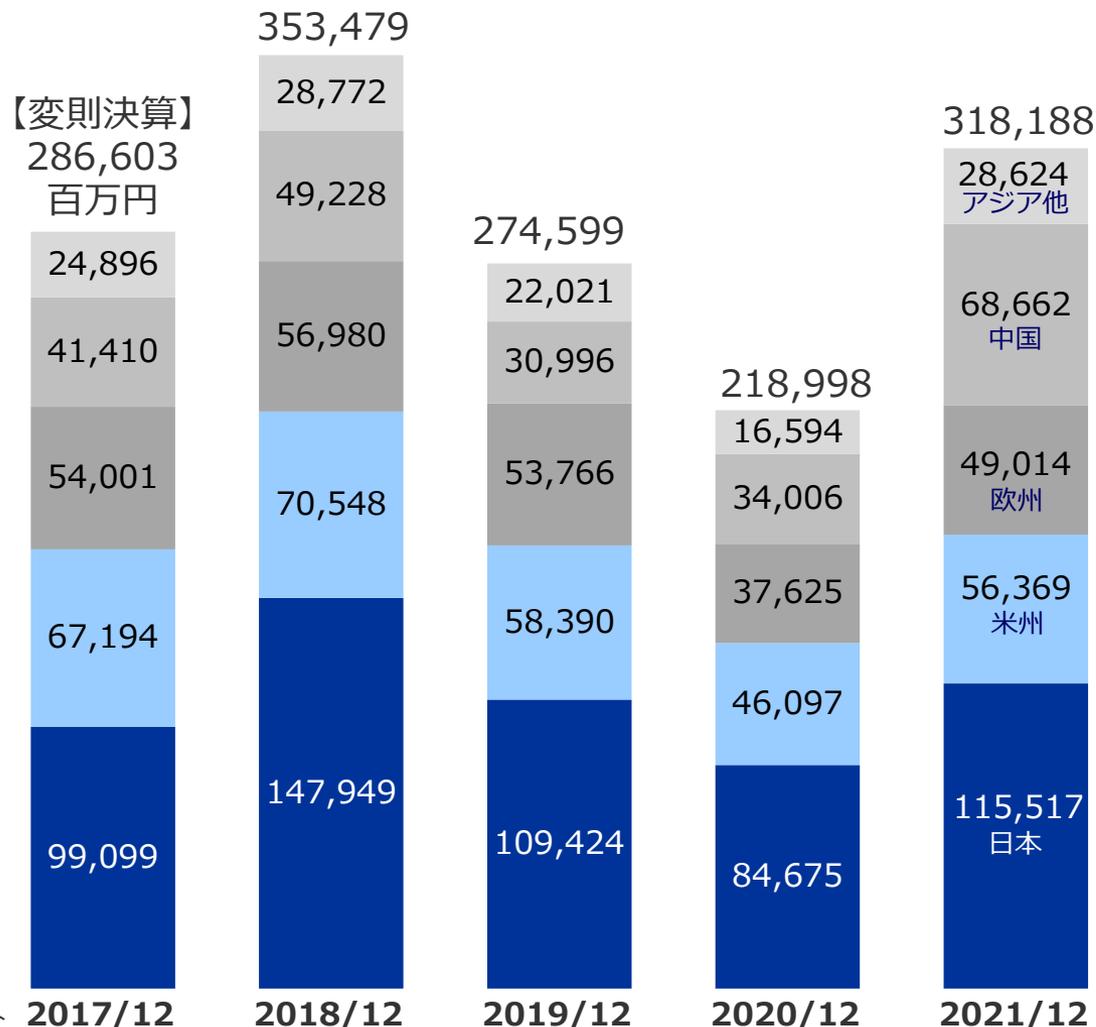
連結営業利益は302億円となった

- 産業機器事業は需要が急回復する中、輸送運賃や鋼材価格の上昇などの影響を受けたものの、売上収益の増加に伴う数量効果が着実に利益増へと寄与し大幅な増益となった。
- 輸送機器事業は自動車の減産や鋼材価格の上昇などの影響を受け、営業損失となった。

2021年11月に修正した計画に対し、売上収益、営業利益ともに上回った

- 2021年11月に修正発表した計画に対して、売上収益は31億円、営業利益は12億円、それぞれ上回った。

売上収益の推移



アジア他

- 台湾 +88.6%
- シンガポール +139.5%
- インド +166.9%

中国

- 工作機械 +137.1%
- 一般機械 +69.6%
- エレクトロニクス +92.5%
- 輸送用機器 △1.6%

欧州

- 工作機械 +60.0%
- 一般機械 +19.5%
- エレクトロニクス +29.6%
- 輸送用機器 +12.0%

米州

- 工作機械 +23.8%
- 一般機械 +26.2%
- エレクトロニクス +82.0%
- 輸送用機器 +8.5%

日本

- 工作機械 +98.3%
- 一般機械 +55.0%
- エレクトロニクス +32.4%
- 輸送用機器 +1.3%

※地域別売上高は所在地セグメントではなく海外売上高ベース
 ※業種別伸び率は1-12月の現地通貨ベース

※輸送用伸び率はTHKリズムとTRAの合計値比較

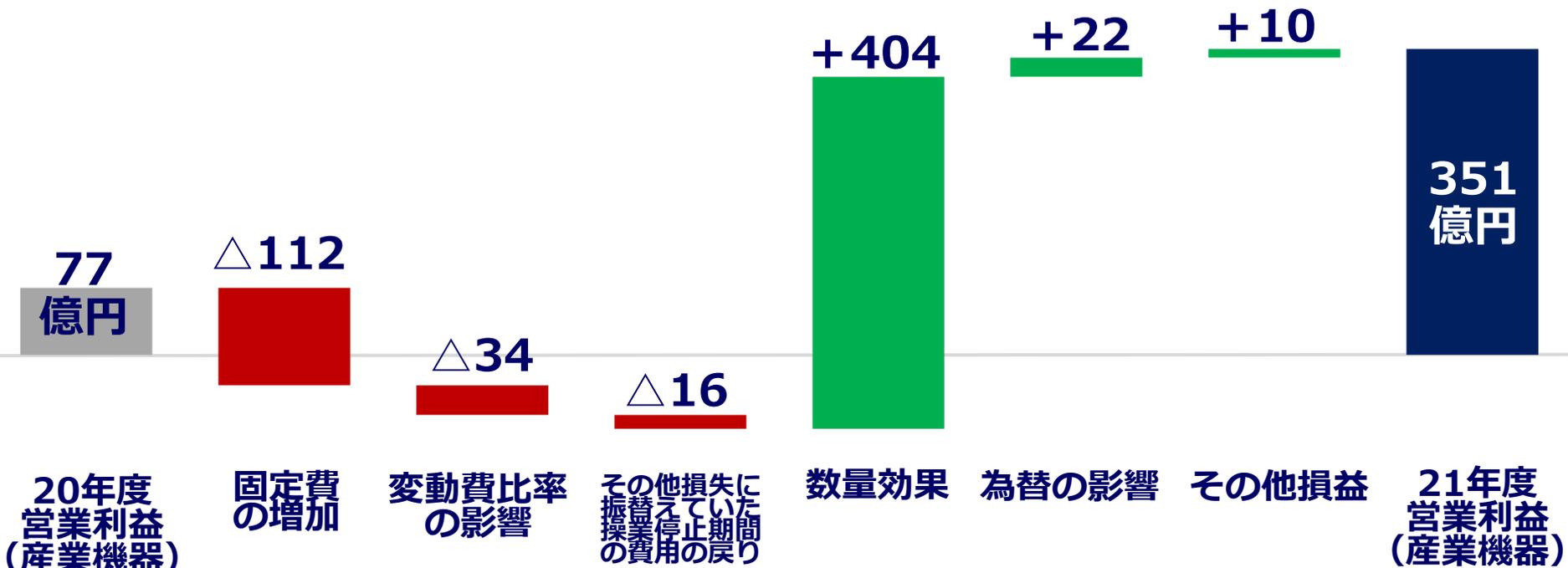
邦貨換算レート

	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12
1US\$	112.19	110.42	109.04	106.79	109.79
1EUR	126.66	130.36	122.08	121.79	129.85
1CNY	16.62	16.71	15.79	15.47	17.02

※2017年12月期は、国内9ヵ月、海外12ヵ月の変則決算期をベースとしております。

※2019年12月期以降は、IFRSベースです。

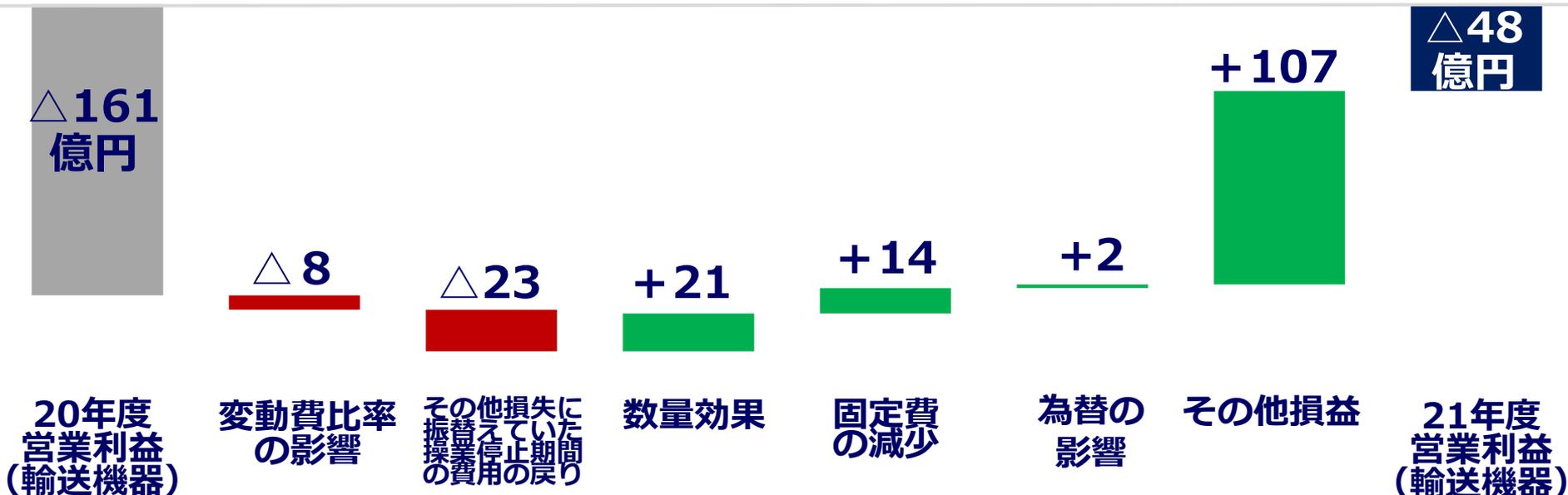
(参考) 営業利益 増減要因 (産業機器事業)



単位：億円		FY20	FY21
産業機器	売上高	1,442	2,319
	営業利益	77	351



(参考) 営業利益 増減要因 (輸送機器事業)



		FY20	FY21
単位：億円			
輸送機器	売上高	747	863
	営業利益	-161	-48

※輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値



資産・負債/資本の状況

総資産 516,086 百万円
前期比 +55,912 百万円

現金及び預金 | 前期比 Δ 7,408百万円

営業CF	15,643百万円
投資CF	Δ 19,125百万円
財務CF	Δ 12,725百万円
換算差額	8,799百万円

営業債権及びその他の債権 | 前期比

+26,788百万円

売上債権回転月数	前期 3.3ヵ月 当期 3.3ヵ月
----------	----------------------

棚卸資産 | 前期比 **+17,141百万円**

棚卸回転月数	前期 2.6ヵ月 当期 2.4ヵ月
--------	----------------------

有形固定資産 | 前期比 **+12,213百万円**

設備投資	21,422百万円
減価償却費	15,824百万円

繰延税金資産 | 前期比 **+2,592百万円**

流動資産

313,922
前期比 +39,427

非流動資産

202,163
前期比 +16,484

負債

201,796
前期比 +16,771

資本

314,289
前期比 +39,140

流動負債 | 前期比 **+20,098百万円**

■ 営業債務及び その他の債務 前期比	+9,691百万円
仕入債務回転月数	前期 1.9ヵ月 当期 1.6ヵ月

■ 未払法人所得税 | 前期比 **+6,962百万円**

非流動負債 | 前期比 Δ 3,326百万円

親会社の所有者に帰属する当期利益
23,007百万円

配当金の支払い **3,568百万円**

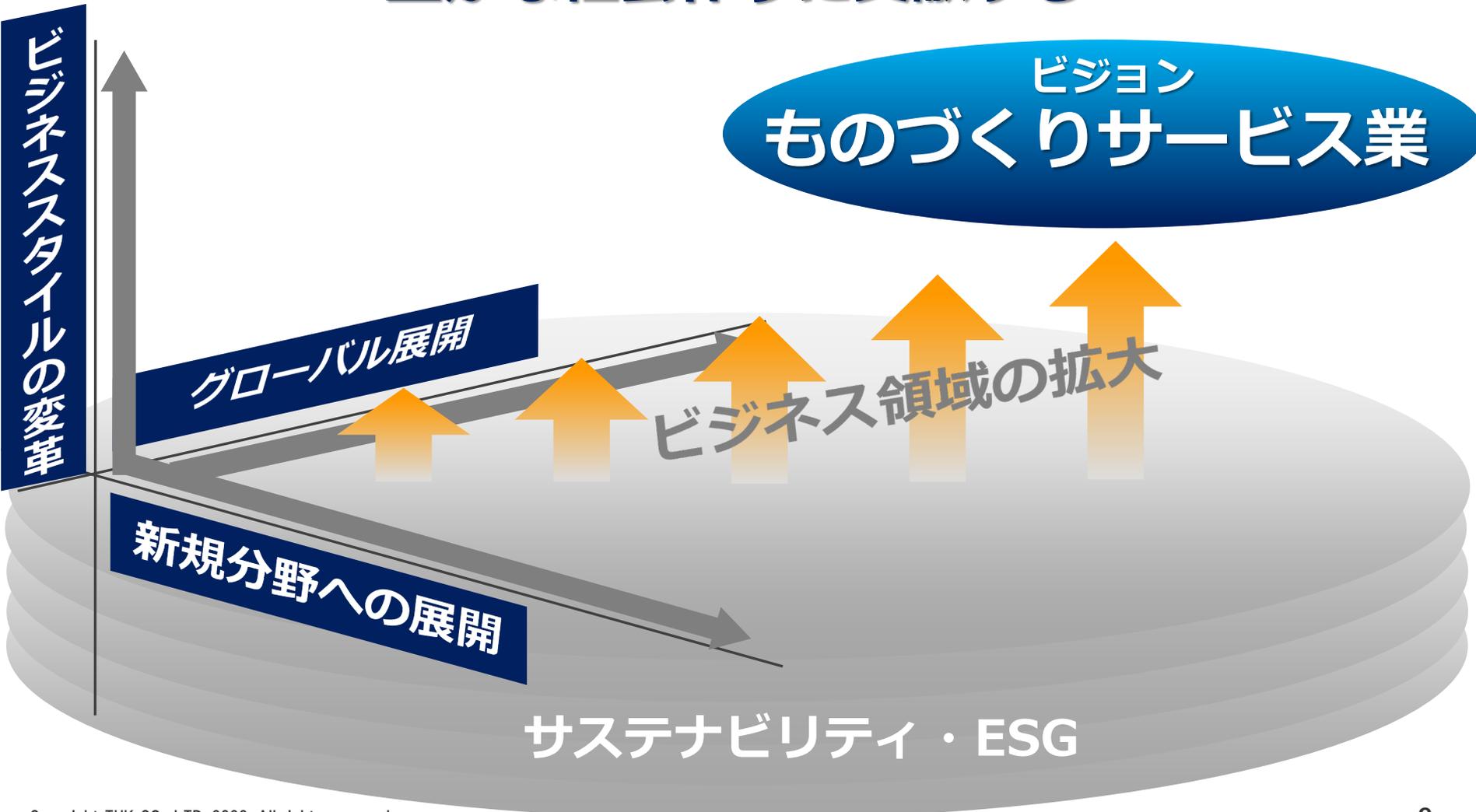
為替換算調整勘定 | 前期比
+21,707百万円

Ⅱ. 経営目標と主な取り組み

THKの経営

経営理念

世にない新しいものを提案し世に新しい風を吹き込み
豊かな社会作りに貢献する



2026年度（5年計画）

売上収益	5,000億円	営業利益	1,000億円
EPS	590円	ROE	17%

産業機器事業 + その他

目標	売上収益	3,650億円
	営業利益	920億円
	市場平均成長率	約7%
環境	半導体関連の需要の拡大 自動化・ロボット化の進展 EV等の環境関連の投資の拡大	
施策	シェア拡大・グローバル生産体制拡充 DXの推進(Omni THK、OMNIedge) 新製品の開発・加速	

輸送機器事業

目標	売上収益	1,350億円
	営業利益	80億円
	市場平均成長率	約5%
環境	CASEの進展 異業種からの参入	
施策	次世代自動車向け製品拡大 アルミ製品強化 収益性改善	

サステナビリティ・ESGの推進

以下は直近の取り組み

サステナビリティ推進準備部会発足
カーボンニュートラル中長期目標遵守

国連グローバル・コンパクト署名
株式報酬制度の導入

各事業における主な取り組み

産業機器事業 + その他



シェア拡大・グローバル供給能力増強
DXの推進(Omni THK、OMNIedge)
 新製品の開発・加速

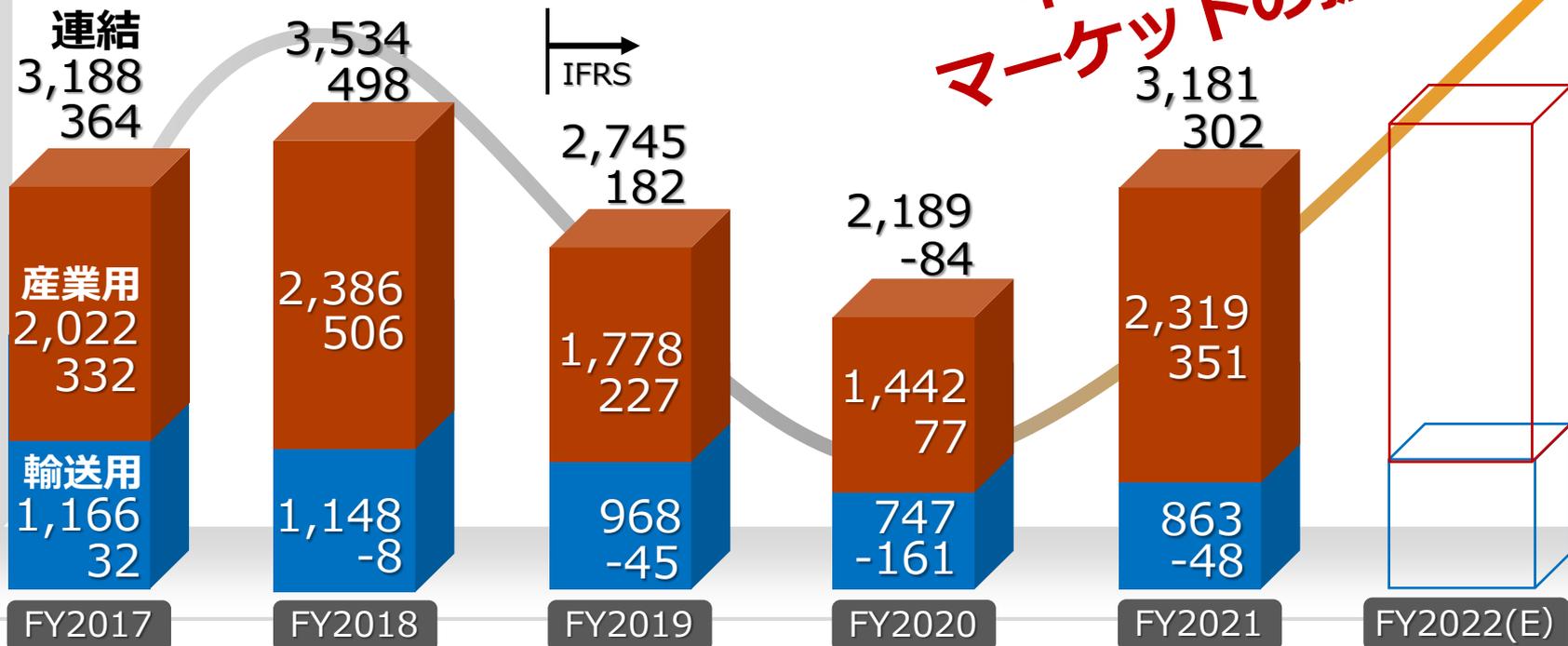
輸送機器事業



次世代自動車向け製品拡大
 アルミ製品強化
 収益性改善

売上収益 (上段: 億円)

営業利益 (下段: 億円)



中長期的な
 マーケットの拡大

※輸送機器事業はTHKリズムとTRAの合計値

一人当たり売上・生産性 (=収益性) 向上

収益最大化 

売上 

費用 

顧客 (エリア・業種)
商品・サービス
単価・数量

固定費
変動費

設備
人
時間
その他

売上向上策
(海外展開を前提)

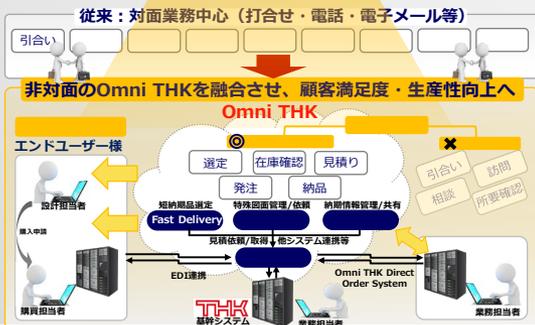
高付加価値業務
への人員シフト

定型業務
工数削減

Omni THKの推進

デジタル人材の育成

各種ICTツールの導入 仕組みの構築



BIツール
CRM RPA/OCR
AI、IoT データウェアハウス
マーケティングオートメーション
etc.

全社的なスキルアップによりDX活動をさらに加速

上級

中級

管理職

初級

基礎

新入社員

データ活用研修
(2019年～)

全社員が
e-ラーニングで受講
(2021年～)

統計学から
プログラミングまで
(2020年～)

人財育成による
すそ野の広がり

画像解析
時系列分析
OJT研修
(2022年～)

機械学習による
予測モデル
Python初級
(2021年～)

データ活用
スペシャリスト
の育成

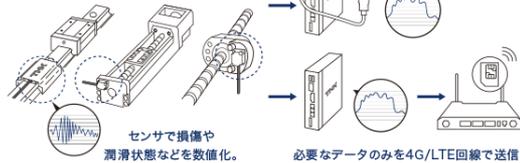


お客様の生産計画のスムーズな遂行をサポート ～現在稼働中の機械要素部品にも後付けが可能～



簡単に設置

専用センサをTHK部品に設置して電源を入れるだけでネットワークを自動構築。



予兆を検知

データを予兆検知ソフトで解析。ソフトウェアは蓄積データにより、学習・進化。

安全な通信



グローバルSIM対応



FANUC
FIELD system
と連携

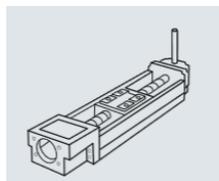
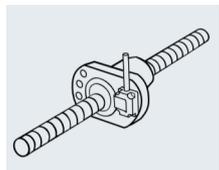
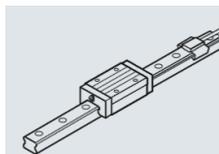


※グローバル対応では各国毎に最適な回線を選定します。

これまでの展開

【製品面】

- ・ LMガイド対応 (2020年1月)
- ・ ボールねじ対応 (2020年11月)
- ・ アクチュエータ対応 (2021年3月)



【機能・サービス面】

- ・ 中国で正式サービス開始
- ・ ファナック株式会社 FIELD systemと連携
- ・ グローバルSIM対応 (アメリカ、インドネシア、タイ、シンガポール、台湾)
- ・ 2つのあんしん特典を追加

中国で正式サービス開始



製造ゼロ待ち チケット

NEW

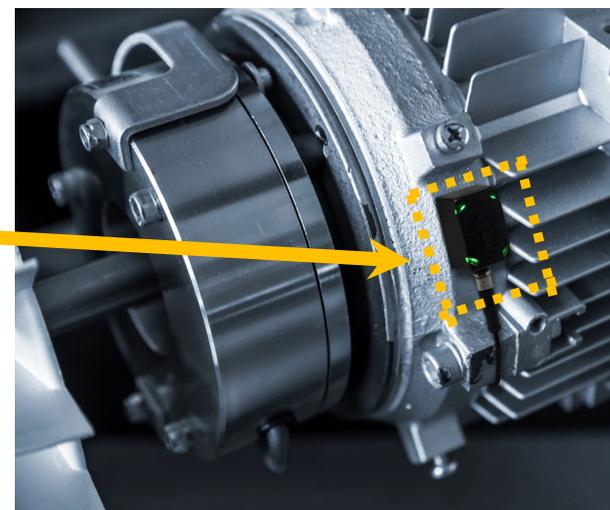
IoT リスク補償

NEW

回転部品のラインナップを追加 ～直動部品に加え、回転部品の予兆検知が可能に～

【特長】

- ・ 即座に使えて即時にモニタリング
- ・ LEDの色変化で状態が一目瞭然
- ・ リモート監視と異常発生時の見逃し防止機能



【正式受注開始時期】 2022年2月

対象部品（例）



ベアリングなどの回転系軸受けが入っている部品

回転部品OMNIedge イメージ図



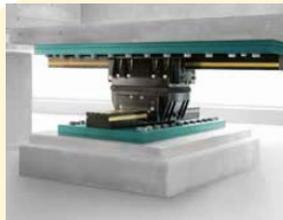
新規分野の開拓

人手不足・人件費高騰、及びIoTの進展を背景に拡大する
サービス産業の省力化をお手伝い

ショップ



免震・制震
Home Automation



物流

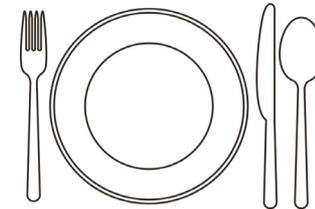


新規分野

再生可能
エネルギー



レストラン



鉄道車両・航空機



医療機器

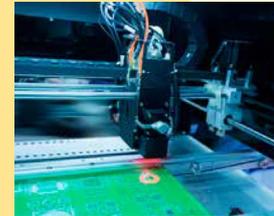


工作機械



既存分野

半導体製造装置



一般機械



産業用ロボット



ボールリテーナ入りLMガイドSPR/SPS

精密化が進む半導体製造装置向けなどに高精度製品を投入

ならいハンドシリーズ TNH

- ・ワーク形状にならって吸着または把持し安定した搬送ができる汎用ロボットハンド
- ・食品、医薬品、化粧品、家庭用品、袋物、機械部品、プラスチック製品、プレス板金、鋳物、陶器などオールラウンドに対応

2021年“超”モノづくり部品大賞
【機械・ロボット部品賞】受賞
(主催：モノづくり日本会議/日刊工業新聞社)



ならい吸着ハンド



ならいユニット



ならいグリップハンド

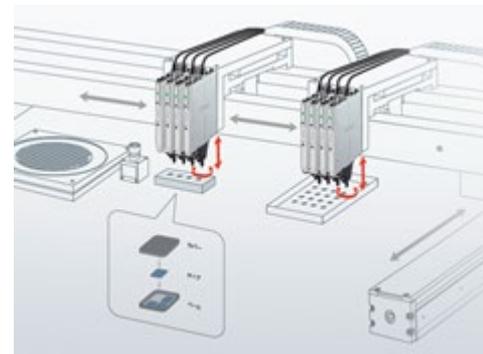
ピッキングロボットハンドシステム PRS

物流センターにおける
アイテムピッキング作業の自動化を実現



ピック&プレイスロボット PPR

電子部品のPick & Place工程に特化した
工程最適型ロボット



グローバル生産体制の拡充（産業機器事業）

THK常州（中国）

増築新工場
2022年3月完成予定

品目： アクチュエータ
ユニット等
床面積：約15,000㎡



THK遼寧（中国）

増築新工場
2022年12月完成予定

品目： LMガイド
アクチュエータ等
床面積：約25,000㎡



THK新潟（日本）

増築新工場
2022年11月完成予定

品目： ボールスプライン
床面積：約7,500㎡



THK India（インド）

新工場
2021年11月稼働

品目： LMガイド
土地面積： 約205,000㎡
第一期床面積：約37,000㎡



SAMICK-THK 大邱テクノポリス工場(韓国)

新工場
2020年11月稼働

品目： LMガイド
土地面積：約50,000㎡
床面積： 約43,000㎡



輸送機器事業の取り組み

CASEの進展

異業種からの参入



水平分業化

サプライチェーンの変化



輸送機器事業における取り組み

CASE対応（特にEV対応：小型軽量化、フリクション低減等）

ユーザーニーズ対応

部品の領域拡大

品質・生産性向上

既存製品

- ・工場相互利用
- ・購買共同化
- ・製品統合
- ・製品ポートフォリオ見直し
- ・新製品の開発（CASE対応）



次世代自動車向け新製品

複合ブレーキシステム用ユニット アクティブサスペンション用ユニット



車高調整ユニット



基本的な考え方

企業活動による負の影響の最小化と正の影響の強化により
社会と企業が、サステナビリティに代表される
共通価値の創造につながることを踏まえ
個の最適化だけでなく、全体最適で行動していく

直近の主な取り組み

- ・ サステナビリティ推進準備部会発足
- ・ 国連グローバル・コンパクト署名
- ・ THKグループ人権方針制定
- ・ THKグループ贈収賄防止方針の制定
- ・ カーボンニュートラル中長期目標設定
- ・ カーボンニュートラル推進プロジェクト発足
- ・ 株式報酬制度の導入



カーボンニュートラルの中長期目標

【中期目標】

2030年CO₂排出量 基準年2018年 50%削減

対象範囲：国内THK、国内グループ会社 2018年実績値：106,514 t-CO₂

【長期目標】

2050年CO₂排出量：実質ゼロにする

対象範囲：THKグループ全体

製品・サービス
による貢献
(正の影響の強化)



事業活動における
CO₂削減
(負の影響の最小化)

カーボンニュートラル
推進プロジェクト



製品・サービスによる貢献（正の影響の強化）

直動製品拡大
(機械の省エネ化、
長寿命化による貢献)



再生可能エネルギー向け
製品拡大
(直接貢献)



自動車のEV化に伴う
小型軽量化に貢献する
製品の拡大



事業活動におけるCO₂削減（負の影響の最小化）

主な取り組み

- ・ LED照明への切り替え
- ・ 高効率設備の新規導入および更新
- ・ 再生可能エネルギー設備の新規導入
- ・ 既存再生可能エネルギー設備の積極的活用
- ・ 創意工夫を凝らした各種省エネ活動
- ・ 空調および照明の監視活動



太陽光パネル（山口工場）



新規空調設備（TMA）



小型冷房設備の活用（岐阜工場）



空調設備更新（甲府工場）

“0”から“1”を産み出し、人々に役立つ技術を開発する
次世代のものづくり人財「創造開発型人財」を育成

2016年～2021年までの活動実績

～中高生のものづくりに対する興味、行動を促してきました～

ものづくり教育プログラム開発

ものづくりに
興味がない



ものづくりに
興味を持つ

学校の授業を通じて、ものづくりの
面白さを伝える体験を提供



実績：17校、約900名に対して実施

サイエンスキャスル研究費THK賞

ものづくりを
もっと進めたい



役立つ技術を開発して
いきたい

研究費・専門知識のサポートを
行うことで支援を実施。
“0”から“1”を生み出す
「創造開発型人財」を多数輩出



3Dプリントをするのと同じくらい手軽にプリント基板製作

実績：50チームに対して実施

スタートアップ企業様を対象にした技術支援サービス 各ステージに合わせた最適なサポートを迅速に提供

スタートアップ企業を 本気でサポート

立ち上げた事業が 軌道に乗るまで

- ・ 機械要素部品の最適品選定
- ・ 装置設計のアドバイス
- ・ サンプル提供
- ・ アプリケーション事例

ベンチャー 立ち上げの準備期間

- ・ 装置設計のアドバイス
- ・ サンプル提供



事業の拡大路線

- ・ グローバル供給体制
- ・ フィールドエンジニアリング

成長を見据えて 事業展開を本格的に 進めていく段階

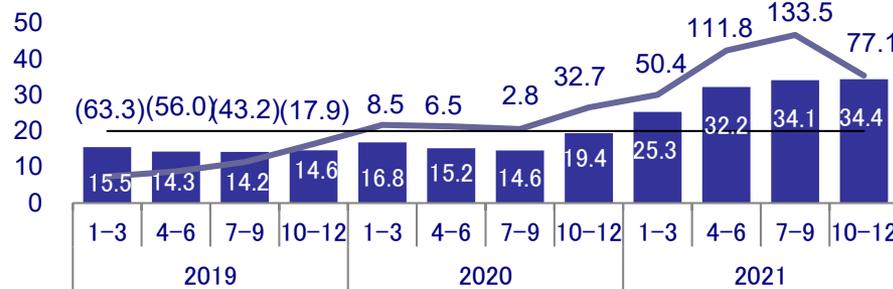
- ・ 技術計算・解析
- ・ 特殊環境に対するソリューション
- ・ カスタマイズ / モジュール製品
- ・ トラブル事例

スタートアップ企業様のお金じゃないバリューアップを実現

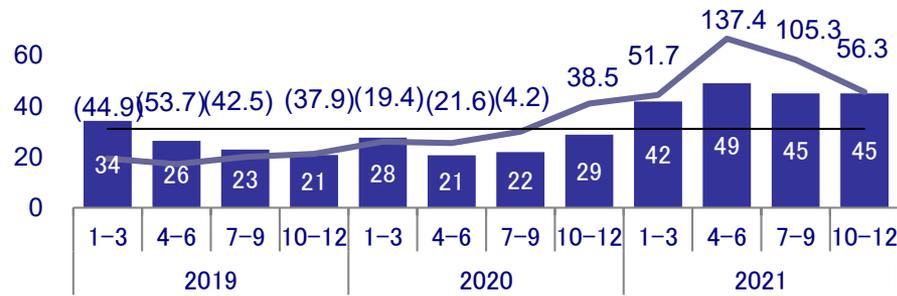
Ⅲ. 2022年12月期 業績予想

地域別受注状況（産業機器事業）

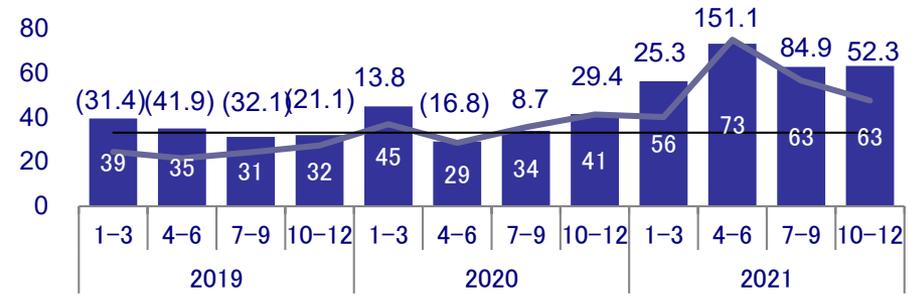
THK国内 *輸出を除く 前年同期比、10億円



THK Europe 前年同期比、100万ユーロ

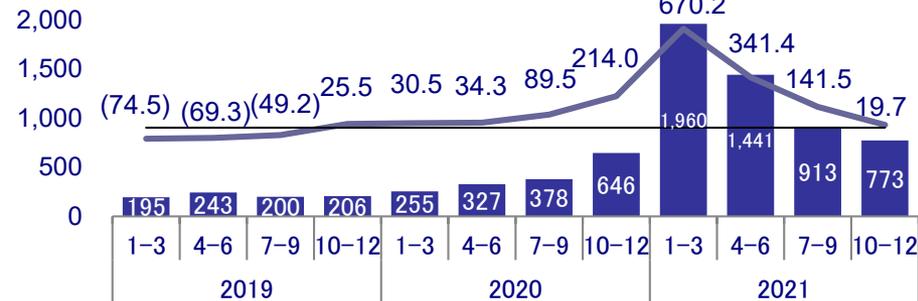


THK Holdings of America 前年同期比、100万ドル

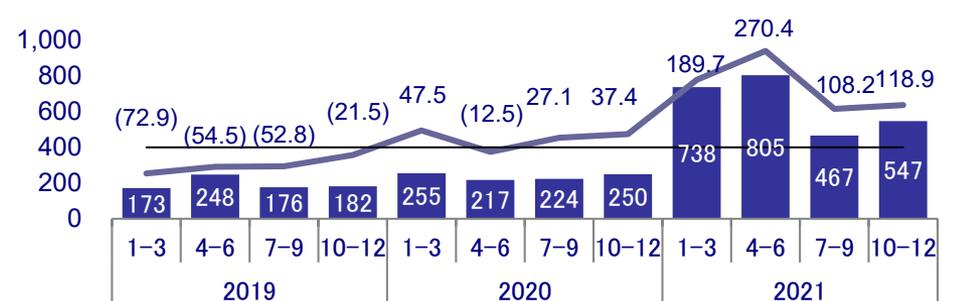


THK (CHINA) CO., LTD. + THK (SHANGHAI)

前年同期比、100万元



THK TAIWAN 前年同期比、100万台湾ドル



利益計画（連結）

	2022/12 計画	2021/12 実績	2020/12 実績
売上収益	365,000	318,188	218,998
前期比	+14.7%	+45.3%	△20.2%
営業利益	43,000	30,268	△8,499
前期比	+42.1%	-	-
税引前利益	43,200	29,984	△9,725
前期比	+44.1%	-	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益	30,800	23,007	△9,992
前期比	+33.9%	-	-

利益計画（単独）

(百万円)

	2022/12 計画 (日本基準)	2021/12 実績 (日本基準)	2020/12 実績 (日本基準)
売上高	188,000	167,583	102,866
前期比	+12.2%	+62.9%	△24.5%
うち国内	116,000	99,637	69,817
前期比	+16.4%	+42.7%	△24.8%
営業利益	20,000	16,718	365
前期比	+19.6%	-	△96.9%
経常利益	23,900	21,914	2,118
前期比	+9.1%	+934.6%	△86.5%
当期純利益	18,100	18,348	△13,183
前期比	△1.4%	-	-

2022年度計画増減益要因（参考）

産業用

2021年度実績 売上収益：2,319億円
営業利益：351億円

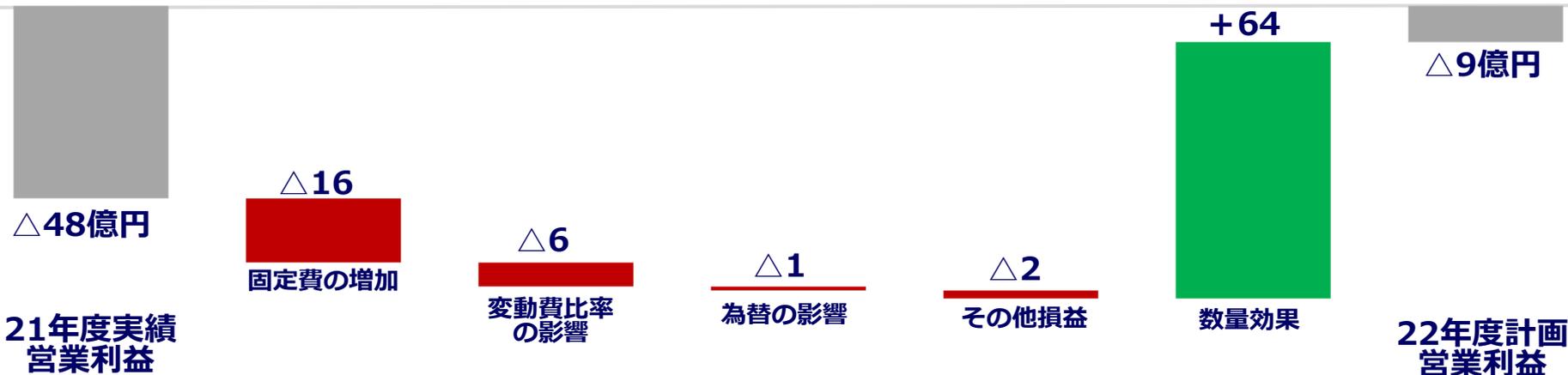
2022年度計画 売上収益：2,610億円
営業利益：439億円



輸送用

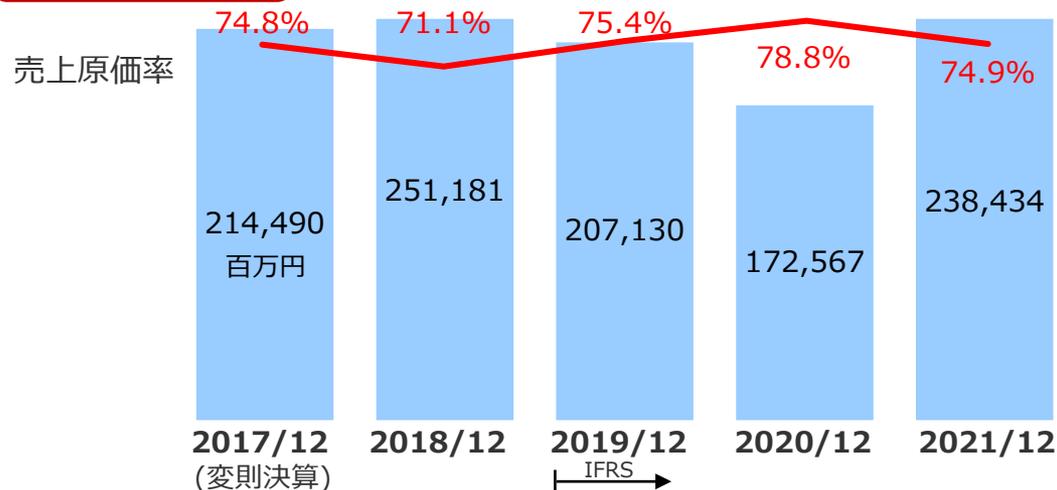
2021年度実績 売上収益：863億円
営業利益：△48億円

2022年度計画 売上収益：1,040億円
営業利益：△9億円



売上原価および販管費の推移

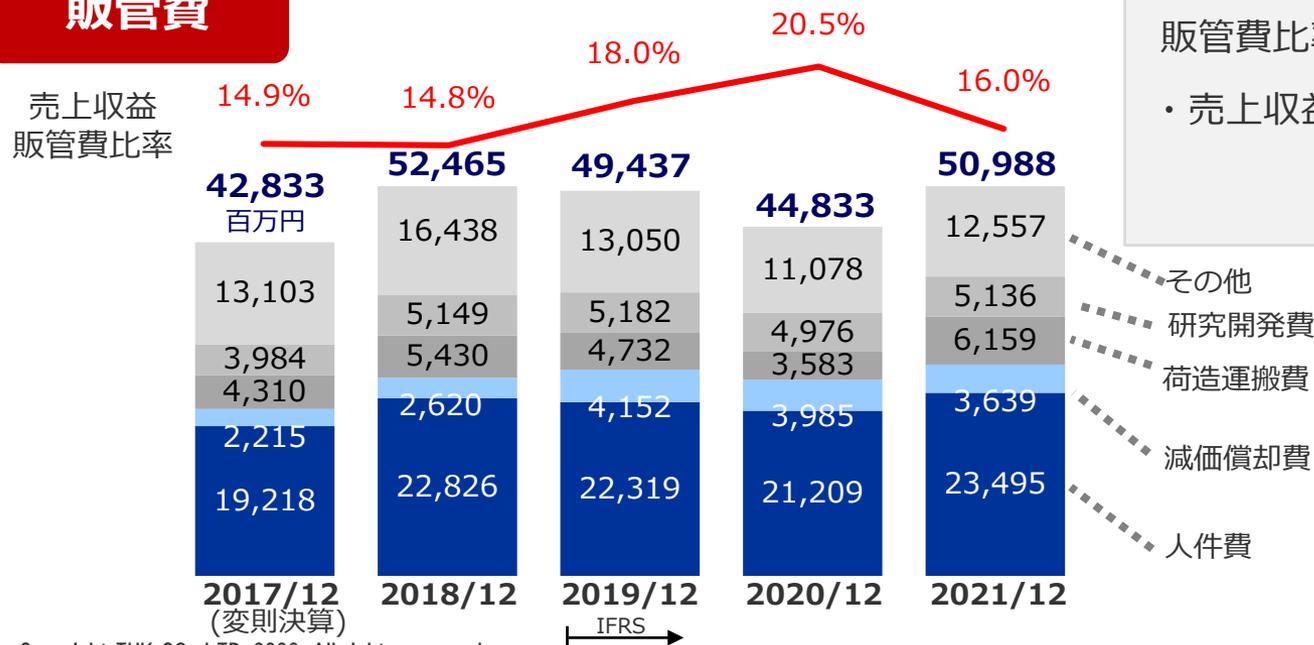
売上原価



原価率は前期比3.9ポイント低下

・売上収益の増加

販管費



販管費比率は前期比4.5ポイント低下

・売上収益の増加

【補足資料】受注高・売上高・受注残高の推移（単独国内）



(100万円)

80,000

70,000

60,000

50,000

40,000

30,000

20,000

10,000

0

■ 受注高

■ 売上高

— 受注残



	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12												
■ 受注高	20,902	23,517	23,234	22,197	23,460	23,637	20,805	21,291	20,847	21,678	22,656	24,630	28,544	35,964	39,076	48,208	42,223	32,488	25,037	17,808	15,514	14,293	14,221	14,626	16,835	15,225	14,617	19,416	25,314	32,243	34,127	34,376
■ 売上高	20,793	21,266	23,479	21,895	23,439	22,240	21,859	21,229	22,559	20,415	22,230	22,471	24,841	26,089	26,592	29,130	29,568	33,286	31,114	32,930	26,571	24,851	21,186	20,190	17,511	17,687	15,501	19,118	20,881	24,715	25,427	28,612
— 受注残	10,220	12,471	12,225	12,528	12,549	13,945	12,891	12,953	11,241	12,504	12,930	15,089	18,792	28,667	41,152	60,231	72,886	72,087	66,010	50,888	39,831	29,273	22,307	16,744	16,067	13,605	12,722	13,020	17,453	24,981	33,681	39,444

【補足資料】業種別受注高の推移（単独）

(100万円)

